

平成 29 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>(1)「自立と社会参加」に向けた教育課程を編成し授業改善に向けた取組をすすめます。</p> <p>(2)小・中学部、高等部を通した一貫性のある「キャリア教育」に向けた取組をすすめます。</p>	<p>(1)キャリア教育の視点を持ち、各学部で具体的な授業改善に取り組めます。</p> <p>(2)「キャリア教育発達段階・内容表」を完成させ、それに基づいた一貫性のあるキャリア教育を行っていきます。</p>	<p>(1)「自立と社会参加」に向け、実生活に必要な力を身に付けられる内容になっているかという視点を常に持ち、各学部で授業改善に取り組む。公開授業研究会、研究授業などの活用に加えて、日ごろから授業を互いに見合う取組をすすめる。</p> <p>(2)学部目標の系統的な再編成等を通じて、「キャリア教育発達段階・内容表」を完成させる。小中高一貫して指導する重点内容を抽出し、取り組む。</p>	<p>授業内容が「自立と社会参加」に向けた実践的な内容になっているか。</p> <p>授業を互いに見合うことができたか。</p> <p>「キャリア教育発達段階・内容表」を完成できたか。小中高を通じた一貫性のある指導ができたか。</p>					
2 児童・生徒 指導・支援	<p>(1)一人ひとりに応じた、きめ細かな児童生徒支援に向けた取組をすすめます。</p>	<p>(1)専門職の参画をさらにすすめ、アセスメント結果を踏まえた個別教育計画に具体的な手立てを示し、個々の実態に合った指導・支援を行っていきます。</p>	<p>(1)①個別教育計画への専門職の参画、アセスメントに基づく目標の設定、具体的な手立ての明示等を行い、PDCAサイクルによる改善をはかりつつ、一人ひとりの実態に応じた指導・支援に取り組む。</p> <p>(1)②教室内の刺激を減らす方向で、掲示、物品保管の仕方についてチーム会等を通じて、教室環境の整備に取り組む。</p> <p>(1)③教員向けに iPad 研修会を行い、教員の活用技術の向上をはかる。</p> <p>(1)④専門職が小1と小4において行動観察を行う。前期目標設定(4月下旬)、前期評価・後期目標設定(9月上旬)、後期評価(2月中旬)の年3回、クラス担任と児童の実態把握や指導内容についての意見交換を行い、太田ステージの結果も合わせてより適切な支援方法について共通理解をはかる。</p>	<p>PDCAサイクルによる手立ての改善をはかり、一人ひとりの実態に応じた指導・支援ができたか。</p> <p>環境整備により、教室内の余計な刺激を減らすことができたか。</p> <p>教員向けに iPad 研修会を行ったか。それにより活用頻度が上がったか。</p> <p>多面的な観点からの見立てをいかし、より具体的で実践的な支援方法を個別教育計画の目標や評価に反映することができたか。</p>					

視点	4年間の目標 (平成 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	(1)将来の一人ひとりの生活の充実をめざし、発達段階に応じた進路指導・支援を行います。	(1)児童・生徒一人ひとりのライフキャリアを意識した進路指導・支援に取り組みます。	(1)①進路担当と小中の各学部とが協働し、児童生徒の社会参加を見据えた保護者進路学習会の内容を検討する。 (1)②高等部においては、高1のアセスメントや高2の校内実習、職場体験、現場実習等を通じて生徒一人ひとりの実態を把握できるような評価の仕方を検討する。	児童生徒の社会参加を見据えた保護者進路学習会ができたか。 高1のアセスメントや高2の校内実習、職場体験、現場実習の中で生徒一人ひとりの実態を把握できるような評価の仕方を工夫できたか。					
4 地域等との協働	(1)地域のセンター的機能を高め、地域の学校や子どもたちを支援し、インクルーシブ教育推進に向けた取組をすすめます。 (2)地域と連携して防災の取組をすすめます。	(1)地域のニーズに応じた丁寧な支援を行い、センター的機能の充実をはかります。 (2)地域防災拠点との連携強化に努め、児童生徒、保護者、地域と一体となった防災の具体的な取組をすすめます。	(1)連絡会・協議会等へ参加し、支援だよりを発行する。公開研修会を年4回実施する。地域の個別支援級保護者を対象とした研修会を行う。交流学习を行うとともに、作品展を開催する。巡回相談や出前授業等を通じて、地域のニーズに応じた丁寧な支援を行う。 (2)東本郷小学校地域防災拠点との協議に参加し、学校ができることや知識の提供をしていく。	巡回相談や出前授業活動への派遣依頼など、具体的な支援に繋げることができたか。研修会や作品展に多くの方に来場していただき、障害理解の促進に寄与することができたか。 地域と共に災害時の体制について検討することができたか。					
5 学校管理 学校運営	(1)より安全・安心な学校体制の確立へ向けて、学校の危機管理体制を強化するとともに、不祥事防止へ向けての取組をすすめます。 (2)ミドルリーダーを中心とした学校経営をすすめます。	(1)①職員一人ひとりの危機管理意識を向上させます。 ②児童生徒が安全で安心して過ごせる教育環境の整備に、学校全体で取り組みます。 (2)ミドルリーダーの意識改革により、学校運営上の課題解決をすすめます。	(1)①発生時には、事実・要因・対策を学部間で共有し、実態や必要に応じて、全校的な対策を検討・導入する。 (1)②私費会計や情報、物品管理の業務に関連する不祥事防止啓発資料等を活用し、事故や不祥事防止の観点を共有することで危機管理意識を高める。 (1)②安全点検日や清掃強化日を通して、危険な箇所の整備をすすめる。 (2)総括連絡会議や企画会議の場を使い横断的な議論を行い、学校運営の中心となって課題の抽出や改善の取組を行う。	学部間での情報共有、必要に応じて全校的な対策を実施できたか。 私費会計や情報、物品に関連する業務において、危機管理意識を高め、事故や不祥事を防止することができたか。 危険な箇所を認知し、整備することができたか。定期的に教室整備を行えたか。 ミドルリーダーが中心となって、課題改善を行うことができたか。					